

を募って自然に皆さんから出てくるのが一番良いと思っています。それらを掲載していったら、もっともっと多くの方に読んでいただく。そんな仕組みを作りたいですね。

飯野：民生委員同士のコミュニケーションを図るのが「ちゅーりっぷの風」の主眼であれば、「かわいい家族」などは、他の方々の人となりを知るのに、とても興味深いのですが、今それらの企画が無いのはどうしてですか？

奥村：歴代編集委員会委員長の編集方針によって、記事の強弱が変わったこともありますね。民生活動の記事が多くなることもありました。以前は旅行記の投稿や、バスで行った視察旅行の記事を掲載していたこともありました。区役所に集まって琵琶湖へ行ったこともありましし、編集委員会で読売新聞に勉強へ行ったこともありましし。

そのような研修があると、記事が書きやすかったです。

石橋：皆さんから自発的に記事を提供してもらうにはどうすれば良いと思いますか？

長谷川：各地区の委員長の方々の協力も欠かせませんね。委員長さんが地区内で投稿を促すような声掛けをしてくださると、良いと思います。

奥村：原稿を依頼するだけでなく、編集委員会が取材をしてこちらで記事にするのも効果的だと思います。

長谷川：角林さんのお父さんが編集委員会の写真班として、各地区の写真を撮りに回られるなど熱心に活動されていました。

影山：原稿を書くことがお上手な方や、多趣味な方などは地域の中では良く分かっていると思うので、その方々にお声がけをしても良いのではないのでしょうか。

石橋：人物往来などは続けるのが良いと思いますが、皆さんが参加しやすい企画を考えていきたいですね。

見澤：川柳の記事は、女性部会があって、そこに依頼をすると各地区の女性部長さんが作品を集めて下さっていました。他の委員会に、今の取組みや所属のメンバーさんを紹介してもらって記事などを依頼しても良いと思います。

奥村：ペットを紹介する「私の家族」の企画は復活させたいですね。

石橋：それならず、津村さんに書いてもらいましょう。

津村：私も 2 代目の保護犬を飼っていますが、他の会員さんもこの企画であれば書きたいという方もいらっしゃると思いますよ。



座談会のようす

【「ちゅーりっぷの風」のこれから】

石橋：「ちゅーりっぷの風」をこれからも発刊を続けることは、メンバー全員の思いだと感じています。紙面の内容は創刊当時と同じで、会員相互の情報誌として発刊したいですね。また、編集委員会メンバー以外にも各種委員会や、地区の代表の方にも私たちが能動的に働きかけて、取材をしたり、民生委員の人となり伝わるような企画を復活させたりして、内容を充実させていきたいですね。

飯野：人となりが分かる企画は是非とも復活させたいですね。紙面に登場する方が多ければ、「ちゅーりっぷの風」に愛着を持って下さる方も増えると思います。前年の紙面をベースに企画を考えると、同じような内容の記事になりますので、過去にとらわれない紙面づくりが大切だと思います。

奥村：各地区の編集委員が、積極的に会員さんの人柄などを把握しておく必要もありますね。

石橋：皆さん貴重なご意見をありがとうございました。

この座談会をやってみて、本当に良かったと思いました。創刊当時からこれまでを振り返り、多くの方々の思いが詰まっていることが分かりましし、今後に向け、いろいろとヒントを得ることができました。当時の思いを大事にしながら、今後、多くの委員のご協力を得て、紙面を充実させていきたいですね。

「継続は力なり」です。皆さん、今後ともよろしくお願いします。



編集委員会のメンバー